

令和5年4月10日

氷見市長
林 正之 様



下十二町自治会長

三井 清三



要望書(3)

十二町潟水郷公園内「暗きょ」の閉塞について

春暖の候、日頃より大変お世話になり、誠にありがとうございます。

つきましては、県道76号線、矢崎交差点(3359-1/)から十二町潟水郷公園に向かう道路に沿って敷設された排水路が、十二町潟に流れ込む手前、公園内の「暗きょ」で度々閉塞を起こしています。今年3月末にも、暗きょをせき止めている木の根の除去が行なわれました。この暗きょ内の閉塞は今回で3回も繰り返していますが、対処療法ではなく、根本的に解決をして頂きたいと要望します。

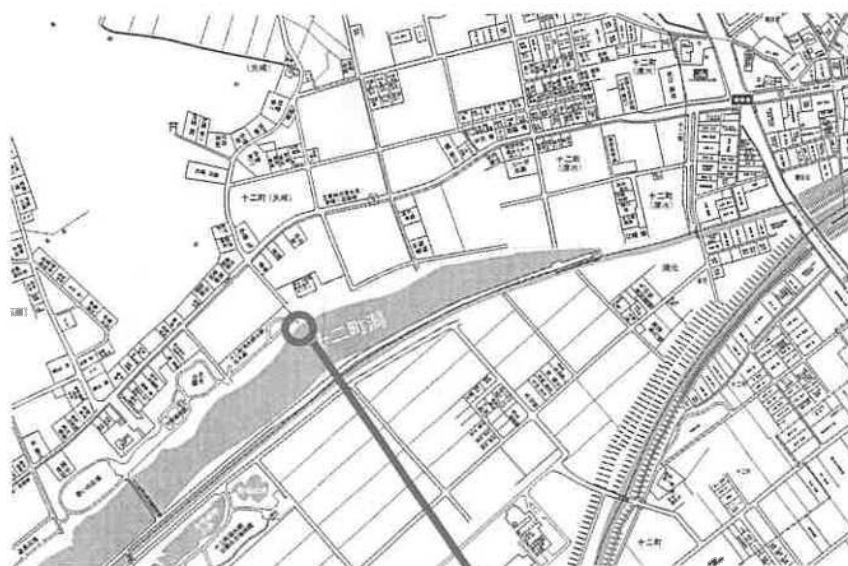
暗きょが閉塞すると、大雨のたびに宅と畑地との境の水路に水が逆流して流れ込み、畑地の低いところが浸水する被害が出たりします。また、はけ口付近の暗きょで水の流れがブロックされることから、排水路の上流では、オーバーフロー寸前に至ったりします。

暗きょ内で目詰りを起こす原因は、水郷公園の水辺に植えられた柳の木の本根っこであることが明白です。暗きょの横、2、3メートル離れた場所の柳の根が暗きょの接続部から入り、内部で団子状の障害物となって水路を塞いでいます。このような様子は、水路のはけ口からも容易に視認できます。

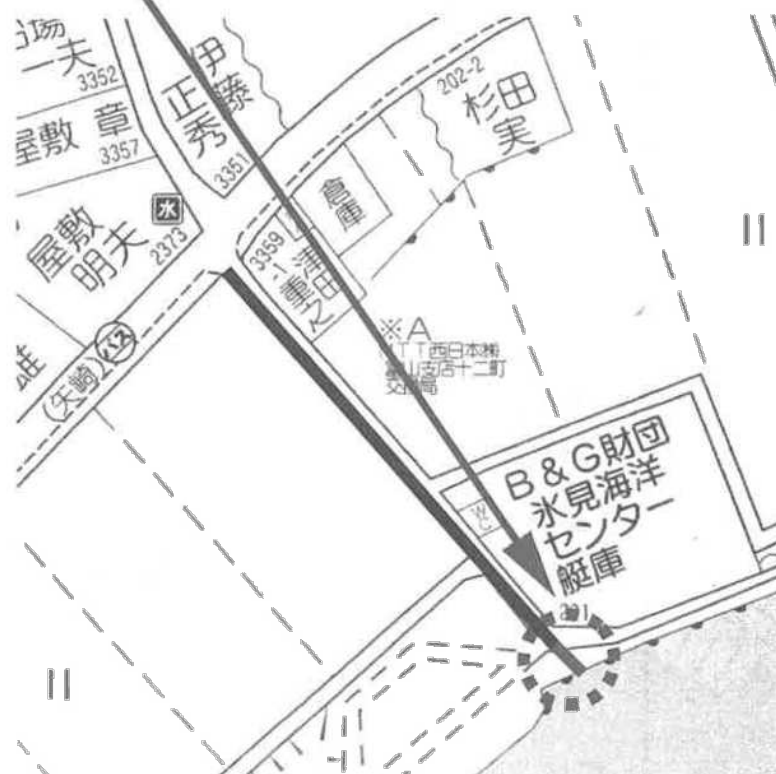
暗きょをせき止める柳の本根っこですが、これまでも2、3年に一度、同じような暗きょ内で閉塞トラブルを起こし、なかの根を取り除き、目詰りを解消しています。当然のことながら、流れを妨げている木の根を取り除いても、相手は植物です。2、3年もするとまた同じように、暗きょ内に根が入り込んで水をせき止めることとなります。下十二町自治会では以前から、繰り返される暗きょ内の閉塞の根本的な

解決を求めてきましたが、実現していません。

今後の大雨災害、洪水被害の観点から、排水路のメンテナンスが容易な①「暗きょを開きよう(明きょ)に改修する」、あるいは根っこが入り込んでいる「②柳の木を伐採除去する」、③「暗きょの接続部に矢板を打ち、木の根っこが暗きょに入り込まないようにする」など、根本的な解決をお願い致します。



この排水路は、十二町湯水郷公園が造成される以前からここにあったもので、田んぼや家庭の排水を十二町湯へ流してきた。その後、水郷公園が造られたときに、その一部が公園内で暗きょになったものである。





暗きよの部分の空撮。暗きよの右側に柳の木が植えられ、大きく生長している。



大雨で排水路に大量の水が流れ込み、暗きよが目詰りを起こした状態(令和4年9月1日に撮影)。前方の十二町潟の水位と排水路の水位に大きな差が生じている。その詰りの原因である柳の木が左に見える。この根っこが暗きよに入り込んでいる。

大雨のときに十二町潟側から見た排水路の状況。手前に暗きよがあり、潟へのはけ口につながっている。(令和4年9月1日に撮影)。水路から水があふれ出て、左手の田んぼに流れ込む寸前。





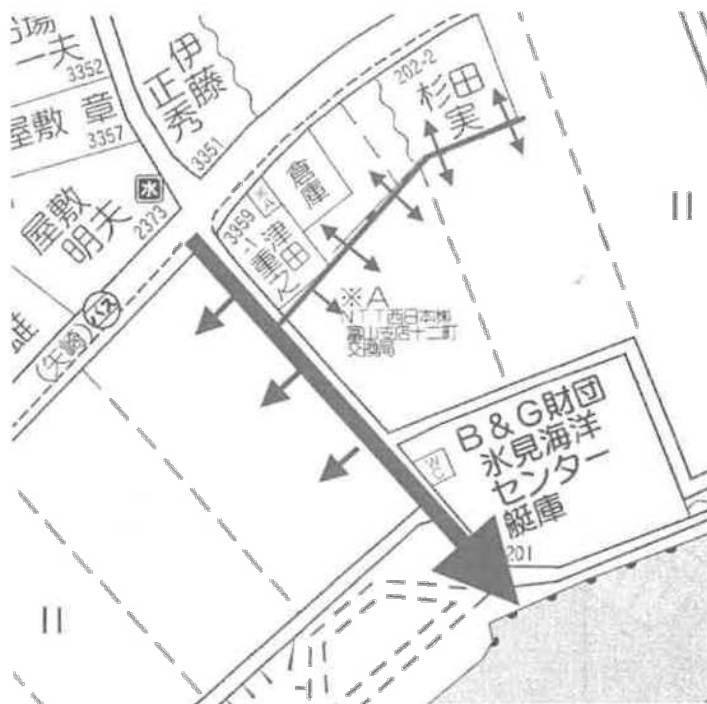
写真左は、排水路・暗きよのはけ口から暗きよ内を撮影した様子。柳の木の根っこが詰った状態で完全に水路を塞いでいる(令和5年3月12日撮影)。写真右は令和4年9月1日に撮影したもの。手前のはけ口は公園の排水路で、向こう側のはけ口が詰りを起こした排水路。はけ口からほとんど水が出ていない。



十二町潟の水位が低下した3月12日に撮影したもので、暗きよ閉塞の原因となっている柳の木。根っこが十二町潟の矢板からも出ている。これと同じように暗きよ内にも入り込んでいる。

暗きょの閉塞による被害

排水路の暗きょ閉塞によって、宅の後方の擁壁沿いから流れ込んでいる排水が逆流してあふれ、畑などへ進入。あたりが冠水する被害が出ています。また、排水路がオーバーフローして田んぼの畔を乗り越え、洪水を起こす危険性もあります。



宅うしろの排水路。暗きょ閉塞によってこの排水路に水が逆流して入り込み、右側の畑が水につかる。